

■原田正純 医師。熊本大学で、水俣病に出会い、患者の立場からの徹底した診断と研究、環境公害を広く世界に訴え続けた。

はらだまさずみ

帝人疑獄事件1934＝ 鹿児島県さつま町で、長崎大学医学部学生原田純隆と正子の子に生まれる。

日中戦争始・1937＝ 3歳：日中戦争以降、従軍して家にはおらず、父は、バスケットボール部に属し、のちに原爆症治療に献身して早世した先輩永井隆と親しく、その後、軍医になり、陸軍病院のあった久留米に住むことになるが、熊本にある九州女学院の学生だった母は、創設者のアメリカ人エカードと親しく、当時としては珍しく、自宅で英会話を教えるといった家庭で、

日米開戦・1941＝ 7歳：日米開戦になって、帰国を余儀なくされたエカードが来宅し、母は、憲兵に調べられる。学校では禁止された外国映画も、母に連れられて見るという自由さであったが、

創価学会検挙1943＝ 9歳：

敗戦・・・・1945＝11歳：「母の実家のあった熊本市に家を借りて疎開したが、空襲を受け、母は死去。弟とともに、鹿児島県さつま町の父の実家に引き取られてまもなく、敗戦。帰還した父は、生活のため、後妻を迎えて、医院を開業。

朝鮮戦争始・1950＝16歳：「新設のカトリック系ラ・サール高校に入学し、寮に入る。校長はカナダ人で、運動会や修学旅行など、日本の文化を否定され、ものの見方が広がった。とくに、演劇に熱中して、父から医者を経よう論され、

独立回復・1951＝17歳：

メデー事件・1952＝18歳：「皆が東京の大学を目指すなか、

テレビ放送始・1953＝19歳：「亡き母の故郷熊本大学医学部に入学。白川大水害で、多くの死者を見て、覚悟がつき、

国連加盟・1956＝22歳：この年、水俣病が公式に確認される。

美智子妃・1959＝25歳：卒業し、大学院に進む。東京の病院で実習中、テレビで、「熊本県水俣市の“奇病”事件のことを知る。

安保闘争・1960＝26歳：熊本大学に戻ると、その原因を解明するようになり、

タイタイ病始・1961＝27歳：沖縄出身で松沢病院の精神科の権威で、この年、熊本大学医学部精神科教授に迎えられた立津政順に従い、「水俣病患者診察に現地を訪れ、水銀が原因で胎児にも影響すること知り、差別と貧困に衝撃を受ける。

TV宇宙中継始1963＝29歳：東京大学へ国内留学。三井三池炭鉱爆発事故が起こって、荒尾市民病院に派遣され、一酸化炭素中毒の後遺症に対し、それを無視しようとする会社の姿勢にも直面、

東京初ベッカ1964＝30歳：*先天的水俣病(胎児性水俣病、有機水銀中毒による神経精神障害)の症例をまとめ、学会で発表、医学博士になる。熊本大学大学院医学研究科神経精神医学修了、精神神経科助手になり

大学紛争始・1965＝31歳：この年、すでに水俣病の原因を掴んでいたにもかかわらず、発表できなかったことを悔やんでいた宇井純は、新潟県で第二水俣病が発生したと知ると、患者のために奔走。「胎児性水俣病の論文が日本精神神経学会賞、賞金で、子供たちが入院する水俣市立病院に絵本などをプレゼント。一段落と水俣病から離れるも、

震ヶ関ビル・1968＝34歳：この年、カネミ油症事件発覚。新潟県の第二水俣病患者が訴訟を起こし、水俣に来訪、刺激された学校教師日吉フミコが水俣病対策市民会議を立ち上げ、国もチッソの水銀が原因と公式見解を出し、

全共闘ビーカ・1969＝35歳：石牟礼道子が「苦海浄土 わが水俣病」を出版、*認定患者らが水俣病第一次訴訟に踏み切り、弁護士から診断書提出を依頼されて、再び、水俣病に付き合い始め、中断していたことを深く反省。父も患者であったはずの執念から「チッソ水俣病患者連盟」委員長になった川本輝夫とともに、水俣病患者の掘り起こしを始める。裁判を支援するべく創設された「水俣病研究会」に入り、サポートに訪れた宇井純と親交し始め、

大阪万博・・・・1970＝36歳：精神神経科講師、

トルジョック・・・・1971＝37歳：この年から3年間、写真家ユージン・スミス夫妻が水俣に滞在し、撮影。裁判の現地検証のために初めて裁判官を水俣に案内する。(宇井純が死去した際の追悼文では)*宇井純に、多数の未認定患者がいることを話し、紹介されて、岩波の「科学」に、「潜在水俣病～病気の全貌はまだ明らかにされていない」が掲載され、

日中国交回復1972＝38歳：*最初の著作、岩波新書「水俣病」を出版。水俣病に深入りするに従い、大学で風当たりが強くなり、熊本大学医学部体質医学研究所助教授になったのを幸い、学外での活動に専念。宇井純に従い、水俣病患者らと第一回国連人間環境会議ストックホルム大会に参加。

石油ショック1973＝39歳：認定患者の水俣病裁判第一次訴訟は原告側全面勝訴。非認定患者が水俣病第二次訴訟を起こす。

角栄金脈辞任1974＝40歳：「長崎県五島のカネミ油症患者の調査して、やはり、胎内で害毒が受け継がれてしまうことにも衝撃、環境公害こそ、人類共通の問題である」と立ち向かうことを決意し、

ケランゴール事件1975＝41歳：「世界環境調査団に参加し、公害病調査で12か国を回る。ニューヨークで水俣の写真展を開き、衝撃を与えたユージン・スミス夫妻からの依頼で、宇井純らとともに、カナダ先住民の村やアメリカの胎児性患者等を訪問。以降、世界各国の環境調査に呼ばれ、世界中に水俣病のような公害病のあることを知る。

田中角栄逮捕1976＝42歳：「熊本県水俣病認定審査会の専門委員になり、いよいよ真剣に患者と向き合うことになる。

革新大敗北・1979＝45歳：水俣病第二次訴訟も原告側勝訴になったが、

貿易摩擦問題1980＝46歳：患者らに対する補償を求める水俣病第三次訴訟が起こされる。

中曽根内閣・1982＝48歳：

ディズニースト・1983＝49歳：宮本憲一と「(岩波ブックレット)いま、水俣病は？」、

・・・1984＝50歳：体質医学研究所の改組により、医学部遺伝医学研究施設疫学部門に移籍。

ジャンボ機墜落1985＝51歳：「水俣病にまなぶ旅 水俣病の前に水俣病はなかった」、岩波新書「水俣病は終わっていない」、

バブル始・・・・1986＝52歳：「(いま、子どもたちはシリーズ)水俣の赤い海」、

リクルート事件・1988＝54歳：

昭和天皇没・1989＝55歳：「水俣・もう一つのカルテ。」「水俣が映す世界」で大佛次郎賞。

バブル崩壊・1992＝58歳：「水俣の視図 弱者のための環境社会学」。水銀汚染調査のためブラジル・アマゾンを訪問。

55年体制終・1993＝59歳：再改組で遺伝発生医学研究施設に移籍。

自社と連立・1994＝60歳：「炭じん爆発 三池三川鉱の一酸化炭素中毒」「慢性水俣病・何が病像論なのか」。(UNEP)「グローバル500賞」。

オムサン事件・1995＝61歳：「水俣病と世界の水銀汚染」。熊本日日新聞「(シリーズ・私を語る)この道は」、

・・・1996＝62歳：「裁かれるのは誰か」「胎児からのメッセージ 水俣・ヒロシマ・ベトナムから」、

金融破綻・・・・1997＝63歳：「炭坑の灯は消えても 三池炭炭じん爆発によるCO中毒の33年」。

石原都知事・1999＝65歳：森弘太と三池炭鉱1963年炭じん爆発を追う「同時代ドキュメント」。「宇井純が東大で万年助手になったのと同様、助教授のまま、熊本大学を定年退職。県外の大学に行く予定が、水俣病支援仲間の熊本学園大学の花田昌宣から強く説得されて、社会福祉学部教授に就任。以後、脳梗塞やがんで、長期入院も度々、

・・・2000＝66歳：五島のカネミ油症患者調査を25年ぶりに再開させる。

小泉9.11テロ2001＝67歳：「吉川英治文化賞」。

小泉北朝鮮・2002＝68歳：「金と水銀 私の水俣学ノート」「いのちの旅 “水俣学”への軌跡」。「講義「水俣学」を開講する。

イラク戦争・2003＝69歳：「久保医療文化賞、アジア太平洋環境賞」。

・・・2004＝70歳：「水俣学講義」第1～3集、花田昌宣と「水俣学研究序説」、

小泉郵政選挙2005＝71歳：「熊本学園大学に「水俣学研究センター」を立ち上げ、センター長となる。

・・・2006＝72歳：宇井純が死去。熊本日日新聞社「水俣学ブックレット」で「負の遺産」から学ぶ」。西日本文化賞。

・・・2007＝73歳：「豊かさと棄民たち 水俣学事始め」「水俣への回帰」、

リーマンショック・2008＝74歳：石黒雅史による「マイネカルテ 原田正純聞書」、花田昌宣と「水俣学講義」第4集、

民主党政権・2009＝75歳：認定されていない水俣病の被害者(患者)を救う目的の「水俣病被害者救済特別措置法」(特措法)が成立。「宝子たち 胎児性水俣病に学んだ50年」。「民間医師による住民検診団を組織し、診断にたずさわるが、

・・・2010＝76歳：「油症は病気のデパート カネミ油症患者の救済を求めて」。「熊本学園大学を退職。朝田賞」。

東日本大震災2011＝77歳：「KYOTO地球環境の殿堂入り」。

安倍政権発足2012＝78歳：「急性骨髄性白血病のため、没した」。

三枝三七子「よかたい先生 水俣から世界を見続けた医師～原田正純」, Wikipedia, 宇井純・宇沢弘文で補足、